

活動名	団体名	日本宇宙少年団ミザール分団
ものづくり体験・科学教室「なんでもかがく塾」	地 域	山口県周南市
	代 表 者	団長 安東 三郎
	支援金額	35万円
活動概要		
<p>モノ作りは、工業力の基盤です。日本人は、モノ作りと勤勉を活かして世界でも有数の科学技術工業国となり、現在の繁栄を築いてきました。資源の少ないわが国は、国として更なる科学技術工業立国をめざしていますが、次代を担う青少年は、自分で考えたり考案加工して生活環境を改善する技能や、遊びのなかで得る社会性や生活科学の知恵などがほとんど無く、彼らの築く日本の将来に不安を覚えます。</p> <p>私たちは、青少年に「工業技術の基盤となるモノ作り技能」「科学への関心」の醸成が急務ではと考え、モノ作り体験・科学学習教室「なんでもかがく塾」を地域で実施しています。</p>		
<p>◆実施時期：平成20年4月から平成21年3月 場所：定期活動 周南市久米公民館 出前活動 山口県内</p>		
<p>◆参加人数：定期実施の科学塾 12回 参加者 児童172名、大人163名 出前実施の科学塾 5回 参加者 児童 76名、大人185名</p>		
		参加総人員 596名



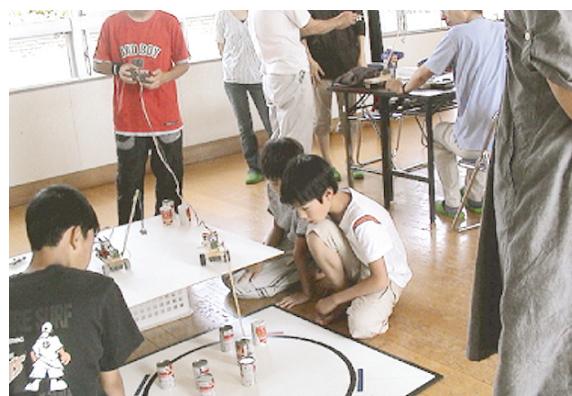
《紙コップバイオリンに挑戦》



《2モーターギヤーセットの組み立ては難しい》



《親子で、はんだ付け作業に挑戦》



《ロボコン完成!》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ・活動分野が広くなり、活動を支えるスタッフ養成を兼ねた大人の科学塾の展開ができた。
また、山口県の要請により、県セミナーパークにて、県央部の児童および父兄に体験していただくことができた。
- ・「ロボットのまち周南」をめざした官学民連携事業・周南ロボコンの第1回が実施できた。

◆苦労した点

【予算】

イベント性の高い活動に予算を配分し、地道に活動する毎月の定期活動へは資金が回せない。

【外部へのPR】

PR予算が組めないので、チラシ、新聞広告等の手段がとれず、参加者が固定化する。

【参加者】

中学、高校生の参加を望んでいるが、低学年生の参加者が中心で運営が難しい。

【地域の理解】

ものづくり科学教室に適合する実施会場が皆無で、地域社会(企業)の協力がほしい。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・現スタッフの高齢化が進み、当地での活動を継続していくため技術系スタッフの募集をしているが応募がなく困っている。
- ・発展の方向性については、市民による青少年育成の社会教育システムにイベントを通して参加を呼びかけ、団塊世代の掘り起こしをすすめていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

毎年のことですが、ものづくりは科学技術の基盤であり、人材育成に必要であると唱えながら、私たちが取り組んでいる「ものづくり科学教室」を支える仕組みが、取り組んで11年になりますがなにも出来ない社会に苛立ちをおぼえます。